

(別記様式)

平成22年度府立北桑田高等学校美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力を身に付けさせる。 2 専門学科の充実と発展に努める。専門教科・普通教科の学習を通して、個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着や学習意欲の喚起を図る。 3 特別活動等を通して、豊かな心をはぐくみ健全な心身の発達を促す。 4 地域に根付く後継者の育成と地域の文化を支える能力の育成を図る。	【成果】 ・教材・授業方法を工夫することで基礎基本を重点に置いた授業展開ができた。 ・ほぼ全員の生徒が就労できた。 ・課題研究など、理論と実践を結びつけながら、専門教育を進めることができた。 【課題】 ・基礎学力の定着を図ることでよりよい学校生活を送ることに対する指導を進めること。	1 基礎学力に重点を置いた教材の準備や指導方法の工夫。 2 地域の素材を活用した専門教育を進める。 3 生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。 4 育友会との連携を進め、学校行事等の活性化を進める。 5 課題をかかえる生徒に対し、教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路の実現を図る

総合評価 A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。 D ほとんど達成できなかった。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	学校教育目標の具現化に努める。	学校経営改善のための積極的な取組を進めることにより、すべての分野で前進させる。 定期的な教育実践の点検・検証	B B	週1回の職員会議・職員研修を通じて教職員の意志疎通を図り、共通認識のもと計画的な教育活動を進めることができた。	
	組織体制を機能的にする。	各分掌・担当者・管理職等への報告、連絡、相談の徹底 教育活動全般の組織的・計画的実践 教職員協調・協力の下、教育活動を進める。	B B B		
教育課程	生徒及び地域の実態を踏まえ、学校の特色を生かした教育課程を編成する。	学科に応じた特色ある教育課程を編成する。 生徒の進路希望の実現に向けた教育課程を編成する。 前年度の評価・反省に基づく改善を行う。 適切な教育課程になっているか、常に点検をする。	B B B B	B	学科の特性を生かした教育課程の編成がほぼできている。その教育課程をもとに新しい教育課程に移行する作業が来年度必要である。
教科指導	各教科の目標を明確にし、計画的な指導を行う。	年間指導計画に基づき、計画的に指導を行う。 授業公開・授業研究を通して、授業改善に取り組む。 常に、生徒の興味・関心を深める指導を工夫する。	B B B	B	6月に全教職員の公開授業が授業改善の一助となった。しかし学期末の指導計画の改善は個々の教師任せになっているのが現状である。低学力生および支援を必要とする生徒の増加に伴い学習習慣の指導の徹底が課題である。
	学力の充実・向上	各学期末毎に年間指導計画の点検を行い、必要に応じて随時見直す。 常に、生徒の理解度を把握して指導する。 学習習慣を確立させるための手立てを講じる。	C B B		
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する。	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画を作成する。 担任団でホームルーム経営の相互評価を行い改善・工夫に努める。 ガイダンスの機能の充実の取組を進める。	C B B	B	年間のホームルーム計画は作成したが4年間を見通した内容という点では十分検討できなかった。文化祭は生徒会幹部を中心に計画的に準備が進められ、生徒一人ひとりが持ち味を出せる場面を設定することが出来た。
	創意工夫した学校行事に取り組む。	文化祭を全校あげて取り組み、成功させる。 学校行事等で一人一人が主役になれる指導を進める。	B B		
	自主的な生徒会活動を目指す。	生徒会活動を通して自主的な力を付けさせる。 各局の活動の見直しと精選を進める。	B B		
進路指導部	地域で働きながら学ぶ中で、自らの適性に合った希望進路を実現する意欲・能力を育てる。	就労の実態を把握し、不就労生徒への援助・指導を強化する。 希望進路の把握と指導を強化し、全体のガイダンス・個々の指導を充実する。 口丹及び周辺地域の求人の開拓・確保に努める。	B B B B	B	4年生全員の希望の進路を決定することが出来た。アルバイト就労に関しては、未就労生徒への面談等指導を行ったが、景気の悪さや生徒の就労意欲の問題もあり、1年間未就労の生徒が6名いた。卒業後の進路のことを考えても在学中に就労体験は重要であると考えているので、今後は未就労者への指導に力を入れていきたい。

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策			
生徒指導	問題事象の未然防止、早期発見ができる体制作りを進める。	各分掌との連携を深め、問題行動の予防や、早期発見に努める。	B	B	問題行動は比較的少なかったが予防策としては十分なことが出来なかった。しかし素早く対処でき再発防止になった。言葉使いや身だしなみの指導はある程度できたがまだ茶髪や制服を着ない生徒がいる。団体鑑賞(落語鑑賞)を通じて健全な文化に触れさせることが出来た。
		地域や関係各機関との連携を密に問題行動に対し素早く対処できるようにする。	B		
	社会的常識が理解でき、実践できるよう言葉使いや身だしなみなどを指導する。	C			
	深い信頼関係に基づく人間関係の育成に努める。	相手を思いやる心を育て、いじめを許さない態度を身に付けさせる。 問題事象の具体的指導を通じて生徒自身の内面に迫り、よりよい人格の形成を目指 健全な文化に触れさせ豊かな人間性を育成する。 挨拶に始まる日常的な声掛けから、生徒・教師間の信頼関係を深める。	C B B B		
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	身近にある差別問題や自分を取り巻く社会の矛盾と人権問題について学習する。	B	B	年間行事としての「人権学習」は各学年それぞれに担任を中心に実施できた。ただし、年に一度の実施では少ないことは今後の検討課題である。また、日常生活における生徒の他者や自己を尊重する人権意識も高いとはいえない。教職員研修はネット社会の危険性を表現したビデオの視聴を行った。
		自分たちの進路と人権問題の関わりを明確にし、差別のない明るい社会を切り開く能力を身に付けるための学習を行う。	B		
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため教科学習の指導を充実する。	C		
		教職員が基本的人権や人権問題について認識を深めるために校内研修を実施したり、情報を発信	B		
図書視聴覚	図書の充実を図り、読書環境を整え、教育活動に寄与するよう努める。	「読書ニュース」や「おすすめ図書冊子」等を発行し、読書への興味を持たせる。	B	B	生徒の読書に対する興味関心を高めるため冊子を作成、配布したが必ずしも効果をあげているとはいえない。また、図書館の利用、読書スペースの改善もできなかった。図書の購入は教職員の意見や希望を参考にしたが、来年度は生徒の希望も調査したい。
		図書及び図書室の整備を行い本を読みやすくする。	C		
		幅広い分野の図書・視聴覚教材を購入する。	B		
			B		
情報教育	円滑な情報教育ができる環境を整備する。	セキュリティ対策に努める。	B	B	本年度はほぼ全員の教職員にパソコン配備が完了した。ホームページの更新はあまりできなかった。
		パソコン及び周辺機器の環境を整え、情報科目を充実させる。	B		
		分校ホームページの更新を積極的に行う。	C		
研究・研修	授業研究等を推進し、教科指導力の向上、生徒の学習意欲を高める研修を行う。	学校の課題にあわせた校内研修を行い、指導力の向上を図る。	B	B	今年度の課題に合わせた行内研修を5回(うち1回は外部講師)持つことができた。また、公開授業も実施することができた。
		公開授業や定通研を通して、指導の充実を図る。	B		
		外部講師などにより、研修の充実と工夫を図る。	B		
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高めるために体の健康と心の健康に関する指導をする。	健康・安全に関する教育を計画的に進める。	B	B	生徒の実態にあった健康教育の課題や発達課題を分析し、生徒の健康づくりに活かせる実践的な取り組みに加え、青年期の心の発達支援も大きな役割となった。また、地域の支援事業や中学校との連携がますます重要になってきている。
		生涯の健康保持増進につなげる実践的な健康指導の充実	B		
		スクールカウンセラーを活用し、充実した教育相談体制を確立する。	B		
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する。	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。	B	B	教職員が交代で日直にあたり、帰宅直前に校内点検・見回り日常の点検を実施した。生徒への防災教育が避難訓練等未実施に終わった。
		地域や関係機関との連携を密にする。	B		
		防災教育等防災教育を計画的に進める。	C		
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して生きる力を身に付ける。	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する。	B	B	多くの授業で実習を取り入れ、体験的な授業が展開できた。実習の体系化が今後の課題である。学科発表会等で一定の成果を上げることができた。しかし、コミュニケーション・チームワークが苦手な生徒が多く、対応が今後の課題である。 農ク活動は例年並みの取り組みができた。今後はさらに競技会等への参加が課題である。学校生産物の地域での販売については、販路を拡大することができた。
		チームワーク・コミュニケーション・プレゼンテーションの力を付ける。	C		
	個々の生徒の実態に応じた学習内容の工夫をする。	B			
	地域の発展を考え、実行できる意欲と能力を育てる。	農業クラブ活動を活発なものにする。 地域での農産物の販売を積極的に行い地域からの評価を得る。	C B		
家政科	家庭生活に関連する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う。	学習効果をあげる適切な教材を工夫する。	A	B	8名の家政科の入学生に対して、教師の方に、実習教材、学習指導等に工夫が求められ、3人の教師が連携し生徒の対応にあたったが、3名の生徒が進路変更をしたの結果は残念だ。在校生の指導面では、上級生が少ない中、家庭クラブの行事を例年以上に取り組み、生徒たちに大きな力をつけることができた。
		体験的な学習の機会を設定する。	B		
		学習の遅れがでないよう適切に補習を実施する。	C		
	学習内容を深め、地域の暮らしを見つめ、考え、向上させる意欲を育てる。	福祉施設等の協力を得て地域での実習を実践する。	B		
		家庭クラブ活動を通して主体的に行動ができる力をつける。	B		
	4年間の集大成として課題研究に取り組む。	B			

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策			
第1学年部	基本的な学力や生活習慣を身に付け、学習及び就労に積極的に取り組む。	基本的生活習慣を確立させる。	C	B	ノート、プリントなど身の回りの片付けができない生徒が一定数いる。学習についてはこつこつ努力して取り組んでいる生徒もいるが、十分でない生徒も多い。しかし、進級に向けていままでは学習するようになってきた。
		学ぶ集団として学習に向かう姿勢を身に付けさせる。	B		
		就労や学校行事等を通して、美山分校生としての喜びと自覚をもたせる。	B		
		家庭との連携を深める。	B		
第2学年部	生徒会活動や学校行事を通して自主性を育てる。	他人を思いやる心を育て、社会性を身につけさせる。	C	B	女子生徒は、他学年の生徒たちとの交流を大切に考えられるように成長し、自ら先輩と後輩の繋がりを引き受け力を発揮している。進路希望も明確になり、向けての取組が進んでいるが、男子生徒の今後の成長が期待される。
		安全にバイク通学できるよう、交通規則の遵守を指導する。	B		
		生徒会活動や学校行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。	B		
第3学年部	他人を思いやり、責任ある行動をとれるよう上級生としての自覚を育てる。	学校の中核となる自覚を持ち、責任ある行動をとる。	B	B	他人を思いやる意識が欠けているが、生徒会活動等、上級生としての自覚を持ち積極的に取り組むことができた。個人面談や進路部と連携を図るなど、自らの進路を具体化させることができた。
		他人を思いやり、人権を大切にする意識を持たせる。	C		
		自らの進路希望を具体化させる。	B		
第4学年部	進路目標実現に向け、あらゆる活動を通じてよりよい人格の形成を促すことを目指す。	授業を大切にし、日常生活においても自覚ある行動をとる。	C	B	授業に対する意欲が低く、責任感に欠ける行動をとる生徒がいたことが残念だった。最上級生としてリーダーシップを発揮した生徒がいた一方で、行事等に消極的な生徒もいた。進路については、5名全員が希望の進路を実現することができた。
		他人を思いやり、人権を大切にする意識を持たせる。	B		
		最上級生として、リーダーシップを発揮し、下級生の手本となる行動をとる。	C		
		家庭との連携を強める。	B		
国語科	生徒の実態に応じた指導によって、基礎学力の向上を図る。	個々の生徒の実態に応じたプリントや副教材の準備等の工夫をする。	B	B	各学年に応じた内容で授業を展開することができた。授業に対する意欲は高められたと思うが、結果的に恒常的な学力の定着までは至っていない。課題である。
		話す・聞く・書く・読む学習をバランスよく行い、随時国語常識学習も行う。	B		
		学習に遅れが生じる生徒には、年間を通して補充指導を行う。	B		
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	1年次は、高校数学で必要とされる計算を徹底して練習する。	B	B	数学に対して苦手意識を持つ生徒が多い中、出来る限り容易に思えるよう、小道具を使う等工夫した。また、基本的な計算力が弱い生徒が多いので問題演習の時間を多く確保した。今後も生徒が理解しやすい授業を工夫していきたい。
		1年次は中学との接続に配慮した授業を行う。	B		
		演習の時間を多く取り、受け身にならぬよう配慮する。	B		
		学習に遅れを生じる生徒には、補充指導を行う。	B		
保健体育科	生涯を通じて継続的に運動できる能力と態度を育てると共に、運動技能を高め強健な心身の発達を目指す。	学期に1回レポート作成を課題とし運動に対する知識理解を深めさせる。	B	B	レポート作成は毎学期の課題としてできた。2学期は持久走の授業に取り組組み持久走でその成果を発揮できた。保健を通じて健康を意識して生活できる基礎を身につけられた。
		2学期は耐久走に向けて持久走の授業に取り組む。	B		
		運動を通じて公正、協力、責任などの態度を育てる。	B		
		教科保健を通じ健康で安全な生活を送るための基盤を培う。	B		
英語科	中学校の学習を踏まえながら、四つの領域の言語活動の有機的な関連を図った指導を展開し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	4技能(聴く、話す、読む、書く)をバランスよく学習させる。	B	B	1年生は1学期では中学の復習に重点を置き、また週1単位をAETとの授業を通して様々なコミュニケーションの機会を持つことができた。教科書内容から背景を学習できる補足プリントを用いて、英語を身近に捉えることができた。
		生活に根ざした自己表現活動を積極的に取り入れる。	B		
		学習遅滞生徒に対して、年間を通じた補充指導を行う。	B		
		1年次は中学校の復習に力点を置き、基礎学力の向上を目指す。	B		
		オーラルコミュニケーションは音声言語に特に力を入れる。	C		
文書・情報管理	文書・情報を適切に管理する。	個人情報等を適切に保管・管理する体制を整える。	B	B	個人情報の管理には細部にわたり注意を払った。文書の作成起案回議は適切に行われた。次年度より校務システムを導入できるよう準備に入った。
		文書は適切に作成、起案、及び回議する。	B		
		成績処理のネットワーク化を進める。	B		
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関との連携、協力を進める。	家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。	B	B	担任を中心として家庭との連絡を密にした。育友会活動は積極的な学校行事への参加がみられた。学科の特性を活かした地域との連携を実施した。
		地域社会・関係諸機関等の行事に参加するなど積極的に連携する。	B		
		育友会事業及び体育施設開放をはじめ、社会教育を支援する。	B		
次年度に向けた改善の方向性	生徒指導・学習指導・進路指導等教育活動全般について、個に応じたきめ細かな指導の取り組みを充実させる 多様な生徒に対処するため、関係機関との連携を深め、校内外の研修への積極的な参加を図り学校としての対応を図る。 前例踏襲にとらわれることなく学校行事等の見直し・精選をすすめ、現状に見合う学校作りを進めていく必要がある。 生涯教育を見通した学校教育の実践を図る。				